

中国の新型観光農家楽

—四川省・成都市を事例に—

展 鳳 彬

(博士前期課程 2007年度生)

はじめに

1995年5月1日から、中国政府は全国的に週休二日制を実施しており、労働者の休日を増加した。この週休二日制は中国政府がサラリーマンなどの労働者に対して行った福祉面の重要な改革である。労働者に従来以上の自由時間を与え、その自由時間を利用して、学習、娯楽、週末旅行などがより一層できるようになった。有効な社会消費にも刺激を与えられ、観光事業の発展にも大きな契機を提供した。最近、余暇の増加と生活水準の向上を背景として、中国では国内旅行が急速に普及しているとみられる。その中でとりわけ、都市の人々が休日に家族または友達同士で田舎に出かけ、農村の「緑」（農村の景色、農家の料理、農家労働の体験など）を楽しむ農家楽¹での休日の過ごし方が次第に人気となってきた。農家楽は都市側の利用者にとって、「安らぎ」、「心の癒し」、「生活の潤い」という気分転換の場となる。一方、農村側にとって、三農問題²の改善、農村地域の経済振興、農民の収入増加、農村の伝統文化の維持、自然環境の保全、農村地域のインフラ建設、都市の人との文化交流を実現する場ともなった。これより、中国経済の発展とともに農村の労働者が大量に都市へなだれ込むため、産業発展の担い手不足に悩まれた農村部と、外来人口の増加に伴

い、治安悪化、教育、医療などの社会公共資源が不足となる都市部との両側にとって、農家楽のようなグリーン・ツーリズムが都市農村交流や中国農村地域の活性化につながる方策として期待が高まっている。

筆者は中国農村部門における観光業—「農家楽」に対する分析を通じて、こうした農業部門内部の持続発展可能な新たな地域振興策を探るため、2007年8月に中国農家楽の発祥地四川省・成都市・郫県を対象に現地調査を行った。以下は、筆者の現地調査報告である。

1. 中国農家楽の発展

農家楽には観光農園型、農業体験型、観光民俗村型など様々な種類があり、山村農家楽、田園農家楽、民族文化農家楽、水郷農家楽、魚郷農家楽、花郷農家楽、竹郷農家楽のタイプに分別されている。中国農家楽は1996年前後から最初の自発段階から大規模発展段階へと全国的に展開してきた。調査³によると、現在中国で1万以上の村が農家楽を経営し、300万人の農民が農家楽を通じて貧困を脱却し、豊かな生活を得ている。

¹ 農家楽（ノウカラク）：観光業と農業を結びつけ、農村の自然、文化を観光資源として運営する農村観光事業を指し、一つの農村経済を振興させる経済活動である。いわば中国型グリーン・ツーリズムである。

² 「三農問題」とは、「農業」の低生産性、「農村」の荒廃、「農民」の貧困、「農」が抱える3つの問題を言い、中国の経済社会の持続的発展を脅かす不安定要因となっている。問題の中心は、農民所得の伸び悩みとそれによる都市部と農村部の所得格差の拡大にある。<http://www.meti.go.jp/report/tuhaku2005/2005honbun/html/H2132000.html> 2008年5月1日

³ 王橋 中国社会科学院人口・労働経済研究所研究院『中国の農家楽と貴州省の棚田・里山—少数民族の風情と原生的な「苗家楽」(ミョウカラク：中国少数民族苗族の農家楽) 東アジア・グリーン・ツーリズム 国際シンポジウム 2008年1月25日、26日に参照。

2. 「農家楽」の現状 — 四川省成都市を事例に

2.1 発展過程

農家楽は四川省成都市郫県（ピケン、地図参照）の農科村で始まった。1987年、郫県の花を栽培する農民の徐紀元が買付人の便宜のため、自家の部屋、庭などを利用して、買付人に宿泊、食事を提供し始めた。これを土台として、郫県の新鮮な空気、花に囲まれた環境、美味しい田舎料理が人気を集め、観光サービス理念、簡単な設備を取り入れることによって、成都市市民に向けて、農業観光事業の「徐家大院」を始めたのである。「徐家大院」は現代中国のグリーン・ツーリズムの農家楽の原形となり、地域内に徐々に広まった。その後、1992年、中国共産党四川省委員会書記が郫県の現状を視察した際に、農家楽の経営第一人者の徐紀元の家を訪ねた後、「徐家大院」に「農家楽」と書き、贈呈した。これによって、最初から郫県で名づけられていなかった農村・農業観光事業が農家楽の名称でさらに普及し続けた。その後、成都市近郊の温江、竜泉驛、総流などの村でも農家楽が始まった。マスコミ、インターネットの影響で農家楽という名称はやがて、全国範囲で農村観光事業の名称として広く知られるようになった。なお、こうした第一次産業と第三次産業の有機結合で形成した農家楽は四川省にまでは数多く存在している。したがって、四川省が一般的に農家楽の発祥地として広く知られ、政府から正式な認定もされた。1996年、胡錦濤主席も郫県を視察し、「『農家楽』は農民に富を創る道を開いた」と称賛した。その時から農家楽は全国に広まった。また、2004年、郫県農科村が中国国家旅游局に「全国農業観光モデル村」と指定された。2006年4月、中国国家旅游局（中国国家観光局）が四川省成都市で「首界中国鄉村旅游節」（第一回中国農村観光旅游節）を行った際に、「中国農家楽発祥地」の称号を成都市郫県に受与した。

2.2 成都市農家楽の現状

成都市において農家楽は中国農村・農業観光業の中で重要な位置を占めており、三農問題の改善にとって重要なカギとなる。農家楽の発祥地である四川省の農家楽は全国で最も発展スピードが速い地域で、全省で21の市に分布している。2005年年末で、全省の農家楽は総計17,037戸に達した。237,920人の雇用を創り出し、8,244万人の観光客を受け入れ、観光による収支額は246,881万元を実現した。成都市の農家楽は5,000戸以上があり、年間2,000万人の観光客を受け入れた⁴。農家楽は地域経済の新たな成長点となり、地域農民の富をもたらし重要な手段となり、農村地域の新たな振興策である。

農家楽では、観光、娯楽、飲食、宿泊、労働体験ができる。①観光：農村の豊かな自然、田園風景、地域の伝統芸能を楽しむ。②娯楽：カラオケ、茶の賞味、マージャン、トランプ、将棋や囲碁などが一般的である。③飲食：各農家楽にそれぞれの特徴がある。要するに、地元産の「緑色食品」という食材を使い、地域の独特の味、風味を強調する料理が定番とする。歴史がある農村は、伝統料理をメニューにするところもある。④宿泊：農村の伝統的な寝台であるオンドルもあり、普通のベッドもあり、ビジネスホテルレベルの基準もある。⑤労働体験：春の耕作、夏の除草、秋の収穫、冬の蓄えを体験する。土産を買うのも観光の一つの楽しみである。観光客が土産で買うのは主に農村の特産物である。例えば、野菜、果物、花卉、盆景、茶などがある。成都市のある調査によると、成都市で農家楽に行く観光者の月給は3,000元以下の93%を占め、87%の観光者が50元以下の「一日游」（日帰り型）に参加している。現在、成都市で中低層の収入者向けの農家楽は半分程度となっている。一日体験し、一食付きで（ほとんど昼食で、メニューは現地生産した食品で作った野菜料理、肉料理4種類ずつ、スープ1種類）、一人あたり20元程度である所が多い。賃金労働者階層の消費水準に適応するという「戦略」で、数多くの農家楽が観光市場を占有している。

⁴ 2007年8月 中華人民共和國四川省成都市郫縣政府（中華人民共和國四川省成都市郫縣政府）郫縣縣長秘書：シュウチョウイ 郫縣觀光局市場開發課課長：鄧靜美のインタビューより

3. 「農家楽」による農村地域振興策への効果と意義

3.1 農業構造の変化と農民の経済力の増長

成都市は「農家楽」の発展によって、伝統的な農業構成を調整し、単純な穀物作りを改め、野菜、果物作り、花栽培の豊富な農業に変化した。第一次産業と第三次産業の有効結合で「農家楽」を経営するとともに農民の収入は増えた。過去、1畝（中国面積単位で、約666.7平方メートルの広さ）の農地は、穀物だけの栽培では年間収入が1,200円を超えられなく、花を栽培しても年間収入は2万円程度である。農業をやりながら「農家楽」を経営すれば、年間の収入は4万から5万円まで増加することができる。例えば、郫県は花栽培と「農家楽」を通じて、農民収入の増加を促進した。近年、郫県全県の花栽培農地は2,100畝に発展し、1畝の農地は2万円以上の収入が得られ、以前の約20倍となった。農科村は農家が686戸あり、100戸以上が「農家楽」を経営している。1日1,000人から12,000人近くの観光客を受け入れ、平均で1日に受け入れた観光客は約4,000人となる。2000年、花栽培による収入は1,560万元、「農家楽」経営による収入は1,800万元、2003年、花栽培による収入は1,546.2万元、「農家楽」経営による収入は1,522万元である。全村一戸あたりの平均年収は4.47万元となった。「農家楽」の発祥人となる徐紀元は年間純収入50万元で、そのうち花栽培は22万元、「農家楽」は28万元となった⁵。

3.2 農民の雇用の上昇

「農家楽」は農業に基づいて、農業内部の改造による入念な耕作、観光業と関連するサービス業などで人手が多く必要とされる。元来より8から10倍の労働力需要を創り出した。成都市は「農家楽」により直接的に360,000万人、間接的に180,000人の雇用を創り出した。そのうち郫県全県510戸の「農家楽」があり、直接雇用は約3,000人、間接雇用は約15,000人を確保した。

農村で収入の確保できる仕事が増えてきたため、出稼ぎの農民が減少した。また、退職し、リストラされた都会人を雇用するケースも多い⁶。

3.3 農民の意識改革

農家楽は、農民の意識に大きな変化をもたらした。近年、都市から大量の観光客が農家楽に行くようになり、観光による農家楽と都市住民との交流は、農村の経済力の向上をもたらしただけではなく、観光客から得た先進的な理念、知識、文化、ライフスタイルなどの情報によって、農民の視野を開き、意識まで影響を与えた。自費で農業知識、サービス知識、経営理念を勉強したり、県外、市外に実地調査したりする農民が現れた。

3.4 農村環境の改善

歴史的な原因で、農村と都市の環境格差は大きい。とりわけ、トイレと厨房の条件が遅れている。「農家楽」に多くの観光客を誘致するために、観光客の基本的なニーズに応じて、農村地域の衛生状況、インフラ建設を改善した。旧来型の田舎便所を水洗トイレに改装し、かまどをボンベ型プロパンガスに変えた。また、道路、橋を改修し、ゴミ、汚水処理などのライフライン施設を整備した。1997年、友愛村は全省の「第一省等級衛生村」と命名され、2002年、「全国精神文明創建工作先進単位」の称号を獲得した。

上述の農家楽による四つの効果により、農村では伝統的な農業構成を調整され、単純な穀物作りを改め、野菜、果物作り、花栽培の豊富な農業に変化した。農民の経済力を上昇させた一方、農村地域の雇用も創り出し、学問もあり技術もある新しいタイプの農民が生まれてきた。それとともに農村の伝統文化の維持、環境の改善、農村地域のインフラ建設、都市の人との交流などに促進効果がある。農村地域は農業を基本にし、その上で観光業を発展するという第一次産業と第三次産業の結合した新型観光業—農家楽は、地域経済の活性化に大きく貢献してい

⁵ 2007年8月 成都市郫县农村村（郫县農科村）郫县農家村書記・村長：宗竹林および郫县農家村主任：候雲秀のインタビューより

⁶ 郫县観光局市場開發課課長：鄧静美および郫县農家村景觀管理局：職員 羅静のインタビューより

る一方、「農業、農村、農民」という「三農問題」を改善するにも大きな将来性が見られる。

4. 今後の課題

今回現地調査の結果、現在中国の農家楽は個人経営型が多いため、管理の不完全、地域資源が効率的に利用されていない、地域文化、特徴を出していない、地域ブランドの単一化などの問題が存在していることが分かった。農家楽を持続可能な地域振興策にするため、管理、経営、地域文化、資源の活用の面における地域農業、地域経営体、地域住民の組織化が重要となってくる。その点において、第一歩としては、同じアジアにある日本の農業観光事業に習う必要があると考えられる。筆者は昨年の京都府府庁構内での「中国の農家楽」の写真展示会を経て、2008年10月に中国で行われる予定の「日中農業観光交流会」を企画している。今後、この交流会を組織的に立ち上げたいと考えている。本研究を通じて、中国の農家楽が日本の農村観光業の先進方法を導入できるように、さらに、中国と日本が農業観光で友好関係をより一層深めるように努力していきたいと考えている。

—内容補足—

今後の課題について、筆者が2008年10月に中国四川省・成都市郫県で「日中農業観光交流会」を行う企画をしている。しかし、この研究報告書を提出した直後の2008年5月12日に史上最大の大地震—四川・汶川大地震が発生した。郫県が汶川に非常に近いため、2008年10月の交流会ができない可能性は十分にあると考えられる。そのため、現在の筆者は、地震があった研究対象地に対して、研究のピンチの中からチャンスを探りだしているところである。中国と日本における交流の機会を提供するという研究活動主旨を変えずに、震災支援活動や震後の復興支援活動という面において、新たな交流活動の企画を考えている。

参考資料：

「成都的农村旅游」（成都市の農村観光）郫県観光局から入手、「农村中国农家乐旅游发源地」（農家村—中国農家楽観光発祥地）郫県農家村景観管理局から入手2007年8月

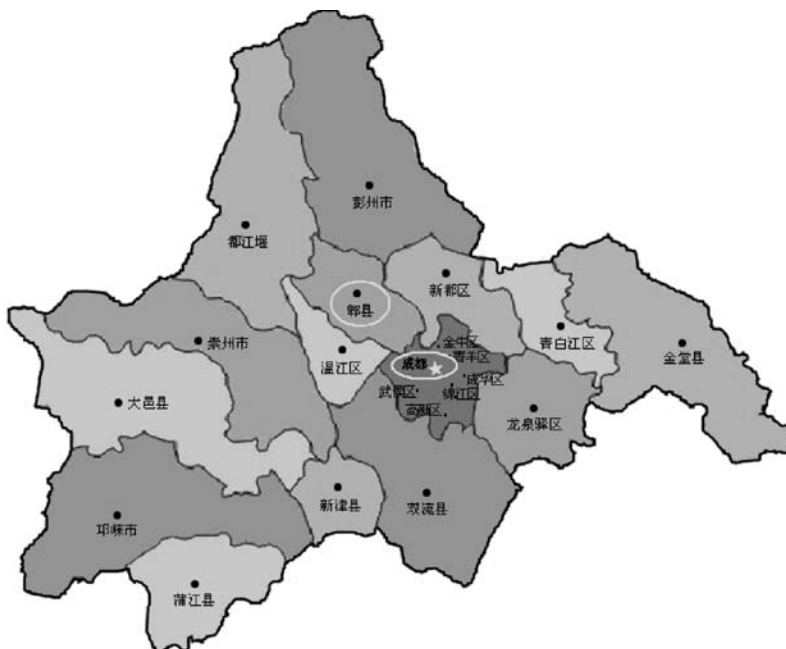
四川省地理所在



Copyright© 2003-2004 中国まるごと百科事典

出所：<http://www.allchinainfo.com/down/white.html>より筆者が加筆（2008年5月19日閲覧）

四川省成都市と郫県の所在



出所：<http://www.chengduinvest.gov.cn/>（2008年5月19日閲覧）

成都市農家楽写真資料



「徐家大院」農家楽の第一人者徐記元の家・農家楽



中華盆栽園（農家村の農家楽）



三聖花郷・河塘月色村の一角